

審査結果の要旨

論文題目「日本語母語話者とアラビア語母語話者（サウジアラビア人）の母語場面及び日本語接触場面における依頼会話—金銭及び時間の依頼会話における参加者の規範の分析—」

学位申請者 ALDULAIMI YAZED（アルドレーミ・ヤズィード）

本論文は、日本語母語話者とアラビア語母語話者（サウジアラビア人）が、それぞれの母語場面における依頼会話でどのようなコミュニケーションの規範を持つか、また日本語母語話者とアラビア語母語話者（サウジアラビア人）が参加者となる接触場面（以下、日サ接触場面）ではどのような規範が働くのかについて分析したものである。また、本論文は日本人とサウジアラビア人の交流が今後一層深まると予想される中、事前に起こりうるコミュニケーション問題を分析し、それをサウジアラビア人に対する日本語教育につなげようとする目的を持つ。

本論文の構成は以下の通りである。

第1章では、日本とサウジアラビアにおける交流の背景、サウジアラビアでの日本語教育などについての説明がなされ、最後に本研究の重要性と目的が明確にされている。

第2章では、日本語及びアラビア語母語場面における依頼会話の先行研究、また、それぞれの接触場面についての先行研究が紹介されている。しかし、これまで日サ接触場面の研究はない。したがって、このことから本研究の意義は大きいと言える。

第3章では、言語管理理論、ポライトネス理論、発話行為など本研究の基礎とする考え方に関する解説がなされている。特に言語管理理論で根幹とされる管理プロセスについては詳しく触れられており、本研究が注目する日サ接触場面の行動指針となる規範について特別に一つの節が設けられている。

第4章では、日本語及びアラビア語母語場面における依頼会話に焦点を当て、アンケート調査（日本人107人、サウジアラビア人110人）を行っている。その結果、両母語話者に「金銭貸借依頼否定規範」「時間提供依頼否定規範」などの4つの大きな規範の存在を指摘している。また、母語の違いによりそれぞれの規範の強弱についても報告している。

第5章では、第4章同様それぞれの母語場面に焦点を当て、談話完成テスト（DCT）（日本人47人、サウジアラビア人53人）により依頼会話を分析している。その結果、第4章で挙げられた4つの規範の下位規範群を報告している。しかし、それぞれの規範の顕在化は一樣ではなく、同様の会話設定であっても、母語の違いによって違いが見られた。

第6章では、日本語を媒体とした日サ接触場面に焦点を当て、ロールプレイ会話（7ペア）とフォローアップインタビューによりデータ収集が行われている。その結果、非母語話者であるサウジアラビア人に、金銭の貸し借りの依頼などでは、日本人の規範にあわせた規範意識が顕在化するなど、母語場面とは異なる規範を確認している。

最終章では、本研究全体のまとめと共に、明らかになった結果をサウジアラビア人学習者の日本語教育へどのように応用するかについて考察されている。

今後、日本人とサウジアラビア人の交流が進むなか、誤解や摩擦のないコミュニケーションを目指すために、本研究は多くの研究者、教育者に参考とされる業績となるであろう。

以上の結果、本論文は学位論文として十分な内容を有するものと審査委員全員の一致で判定された。

したがって、学位申請者 ALDULAIMI YAZED（アルドレーミ・ヤズィード）氏は東海大学博士（文学）の学位を授与されるに値すると判断した。

論文審査委員

主査 博士（日本語日本文学） アブドーラ・アルモーマン 国際学部国際学科教授
(文学研究科日本文学専攻)

委員 博士（日本語教育学） 加藤好崇 語学教育センター教授（文学研究科日本文学専攻）

委員 博士（教育学） 元田静 語学教育センター教授（文学研究科日本文学専攻）

委員 博士（言語学） 外崎淑子 語学教育センター教授（文学研究科日本文学専攻）

委員 博士（応用言語学） 宮崎里司 早稲田大学国際学術院
大学院日本語教育研究科教授